



『思い出と決意』

会長 安達 謙司

日本が朝鮮戦争の特需
景気によって大東亜戦後

の荒廃から漸く立ち直りかけてきたころ、私は射撃部に所属しておりました。河野武典監督(旧姓和田)、戦後初代主将の平山八郎先輩、主務の北條俊朗先輩、その他多くの先達の御指導を受け、射撃に打ち込んだ事を今も私の誇りとして懐かしく思い出されます。

昭和二十年九月二日、米国戦艦ミズーリー号甲板で政府代表が降伏文書に署名をした時、日本学生射撃連盟は自ら解散を決定したといわれます。その後の学生射撃会の活動は、幾つかの同好会的な動きに留まり、昭和二十八年九月十三日に國學院大學の常磐松グラウンドで学連復活記念大会が開催されるまで、丸々八年間空白状態に置かれたのです。

学連復活記念大会は本學の石川岩吉學長の始射式で開幕となり、東西九大学(慶應義塾大学、早稲田大学、明治大学、中央大学、青山学院大学、芝浦工業大学、同志社大学、立命館大学、本學)の選手で競技され、競技役員には戦前の最後の学生王者に輝いた本學OB平尾旨剛先輩も参加した。試合結果は本學の天野・中島組が団体優勝し、個人競技でも平山先輩、天野先輩、中島先輩が1位～3位までを独占した。それを入部して、初めて木本先輩から聞いた時には本当に驚き感動しました。また、開会式典では師尾源蔵様(戦前の学連創始者、日本ライフル射撃協会会長、明大OB)、石川學長、文部省教育局の西田体育課長様、木梨信彦様(東大OB、学連会長)、芹沢新平様(明大OB、学連理事長)の順に挨拶を賜り、大会が大いに盛り上がったそうです。

本學射撃部には一つの特色があると思います…。昭和十一年の全日本学生射撃連盟結成記念兼第1回全日本学生射撃大会を団体優勝(河野、高桑、荒巻、木村、宮地、杉本、行弘、杉田、渡辺、古屋の先輩方々)、個人優勝(行弘桃太郎先輩)。同大会東西対抗戦で個人優勝(河野先輩)。全日本学生射撃大会第1回四支部対抗戦(関東、関西、東海、関東州)で河野先輩が個人優勝。幻の東京オリンピック代表選抜第1位で河野先輩。戦後は学連復活大会を団体優勝、個人優勝。私がコーチ時代、射撃競技がフリー

銃からスタンダード銃にルール改正になった昭和四十四年春、最初の学連主催の関東学生ライフル伏射選手権大会において、三田芳治氏がSB部門で個人優勝し第1回林崎杯を受賞。同大会AR伏射競技を団体優勝(林 正明、石川 明、吉川辰男、太田寛道、本間恒夫の各氏)、個人優勝(石川 明氏)。春関AR三姿勢競技に石川 明氏が立射種目優勝。…という具合に、初物をいただくのが得意のようです。

大会で団体優勝を獲得する、個人優勝者を輩出するという事は、その部会にそれなりの組織力、実力が無ければ出来るものではありません。そして、「技を競う」これは競技者としての宿命でもあります。現役諸君には選手の人も、選手でない人も、皆でそうした環境作りに励んで頂きたいと思います。部活動運営の一つ一つを責任持って充実・連携させる事が大きな力を生み確実に躍進に繋がっていきます。

私達OB連合は些少ながら現物支援を引き続き実行していきたいと思います。現金による支援は海外遠征等特別の場合を除き考えておりません。

「やたらと^{かね}金を渡す」これは戦後の日本人の体質となってしまったのか。当事者間のコミュニケーションがバランスしていない事を証明しているようなものです。その行為は世界の恥じとなっている現状で、私達は厳に慎まなければなりません。「信頼するからこそお金を渡す」と言う人がいますが、それは自分の不精・無能を隠しているにすぎません。又、この類の人は、お金に^{こゝろ}霊が宿りやすいことを熟知しており、さらには^{ことば}言霊を駆使して利己事を期待している場合が少なくないので注意を要します。冷静、沈着に良識を持って対処することを心掛けて下さい。慣習の「お年玉」「お祝儀」「大入り」等、此れは別です。現役部員の皆さんもよくよく考えてみて下さい。お金は人間社会における約束事なのです。

大酒飲に人生の成功者を聞いたことがありません。自分の酒の量を知って下さい。酒は百薬の長と言われますが、分量を間違えると気違水になります。

技を磨くと共に、お金、酒、人間関係、責任について四年間通して学ばれる事を切に希望します。

平成八年十月に鈴木健彦氏(現OB連合事務局長)からOB連合を発足したいとの連絡をいただいてから早や四年が過ぎました。今後も射撃部並びにOB連合のより一層の充実を目指し努力する所存であります。連合会員の皆様には倍旧の御指導、御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。 押忍